

（枕草子③）

枕草子 ↓ 時代

冬はつとめて。雪の降りしは、い
ふべきにもあらず、霜のいと白きも、
また、ハナらば、いとも寒きに、ハズなむと
急ぎおぼしめて、炭もて渡るもいと
つきづまし。谷に降りて、ぬるく
ゆるびもていけば、火桶の火も白き
灰がちになりてゆろし。

